

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------|
| 事業所番号 | 2170200345 |
| 法人名 | 医療法人 香徳会 |
| 事業所名 | グループホーム あさひ |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 7 月 18 日 |
| 評価確定日 | 平成 20 年 8 月 30 日 |
| 評価機関名 | 旅人とたいようの会 |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 25日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|--|--|
| 事業所番号 | 2170200345 | | |
| 法人名 | 医療法人香徳会 | | |
| 事業所名 | グループホームあさひ | | |
| 所在地 | 岐阜県関市美和町3番地 (電話) 0575 - 23 - 8280 | | |

| | | | |
|-------|----------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 旅人とたいようの会 | | |
| 所在地 | 岐阜県大垣市伝馬町110番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月18日 | 評価確定日 | 平成20年8月30日 |

【情報提供票より】(20年 5月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|---------------------|----|
| 開設年月日 | 昭和・平成 11年 5月 19日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 6人 |
| 職員数 | 6人 | 常勤 4人, 非常勤 2人, 常勤換算 | 5 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|------|------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2階建ての | 1階 ~ | 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|------------|
| 家賃(平均月額) | 31,500 円 | その他の経費(月額) | (日額) 650 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| または1日当たり 1,200 円 | | | |

(4) 利用者の概要(5月 28 日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 6名 | 男性 名 | 女性 6名 |
| 要介護1 | | 要介護2 | 1名 |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 3名 |
| 要介護5 | | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 88,1 歳 | 最低 73 歳 | 最高 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------|
| 協力医療機関名 | 関中央病院 |
|---------|-------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改造のホームは、近くに神社や寺院のある静かな住宅街にあり、「その人らしい日常生活が送れるように」の理念に添った美味しく食べて、気持ちの良い(入浴、排泄、睡眠の)支援を基本としている。時間の経過と共に生じる利用者の機能低下にも年齢のせいと思わず、機能低下予防に真摯に取り組み、医療連携や転倒委員会の研修・母体病院の指導等を受けて利用者全員のトイレ利用や自力歩行継続への努力をしている。ホームの職員はより質の高いサービスを目指して、勉強会や研修に勤しみ、学んだことは他の職員と共有し、利用者の「その人らしく輝き、喜び、笑顔の生まれる」支援に活かしている。

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回評価による改善課題なし 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 常に自己評価をを行い会議を重ねて改善点の実践を行っている。外部評価はミーティングとチェックリストを行い、職員との共有をはかり、質の向上に活かしている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議に行事表を作成してホームの暮らしを報告すると共に、評価や事故・事例の報告をして改善点の確認や助言を貰い、ホームのモニター役としての機能が果たされている。議題によっては地域の隣人の参加に加えて自治会長の参加があり、地域を巻き込んだ避難訓練や夏祭りへの参加等があり、地域密着サービスが根付きつつある。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族アンケートは意見の述べやすい様に外部の苦情相談員への返送をお願いしたり、家族の意見・要望を吸収出来る様に面会届けに加え、具体的な家族の言葉を記入する面会記録を作成するなどの改善を行い家族の意見・要望を吸収して運営に反映する前向きな姿勢がある。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して新年会や側溝掃除、公民館掃除の地域行事に参加し、避難訓練や夏祭りに参加して、地域連携を深めている。利用者は日常的に商店街に出かけ、買い物や寺参り・散歩などを通して地域の人々との交流を図っている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 岐阜県最初の「ふるさと福祉村」開設に母体病院が関わり、講演会などに管理者が出席している。地域の中でその人らしく暮らし続けるための支援を職員は模索し、利用者一人ひとりに添った地域密着サービスを事業所の基本理念に基づき、行っている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい日常生活が送れる様に支援を行う。」を理念に掲げ、その為の基本支援を「美味しく食べて貰う。そして心地よい入浴と排泄と睡眠」が一番大切であると管理者と職員は思いを一つにして支援を実践し、生活の維持・継続の為、機能低下予防の支援を組み入れ利用者全員食事は普通食でトイレ利用である。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、新年会・川掃除・公民館掃除等の地域行事に参加している。隣人には運営推進会議への参加や訪問を依頼し、ホームの理解と地域浸透を図っている。利用者は商店街の祭りや催しに出掛けて買い物や昔馴染みの店での会話を楽しみ、美容院に行った利用者は店の人や客との会話や交流の楽しい時間を過ごしてくる。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者と職員は評価の意義を理解し、評価を活かしサービスの質の向上に取り組んでいる。常に自己評価を行い会議を重ねて改善点の実践は勿論、外部評価や学生の実習後のアンケート等、他者からの意見の吸収にも意欲的で、利用者のその人らしい生活の継続の支援に活かしている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を定期的開催し、行事表を作成してホームでの暮らしを報告している。評価や事故・事例の報告を行い、改善点の確認や助言を貰い、運営推進会議がホームのモニター役として機能している。メンバーに地域住民として隣人の出席があるが、議題によっては自治会長等の出席もあり、地域に開かれたホームを目指す努力が伺える。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 認知症サポーター研修の講師やふるさと福祉村主催の地域懇談会等、市との関わりの深い行事への参加で市の担当者との打ち合わせや会議も多い。その関わりの中で老人会の会合に招かれて相談や話をしたりして、市全体の介護の質の向上に積極的に関わっている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 定期的に手書きの「ゆったり通信」を家族に送付し利用者の様子を知らせている。家族の訪問時には、他の利用者や職員と一緒に居間で話をする時間を持ち、ホームでの暮らしを見て貰っている。時には利用者全員に家族から自宅で咲いた花のプレゼントがある。利用者の衣替えは家族にお願いし、訪問の機会を作り意見・要望を聞いている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族アンケートを実施し、意見が言いやすいように外部の苦情相談員への返送を試みたり、家族の訪問時の面会届に加えて具体的な家族の言葉や意見、希望を記入する面接記録を作成し、家族の意見・要望を運営に反映すべく前向きな努力があるが、意見・要望がなく反映に到っていない。 | | 事業所は家族等の意見を吸収し、運営に反映させるべく努力をしている。意見・要望が無いという事は利用者や家族の信頼が高く、支援への満足度も高いと察せられるが、利用者のより多くの笑顔を目指して利用者や家族の意見・要望が引き出せるような様式など方法の工夫をお願いしたい。 |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員は意欲を持って仕事に取り組んでおり、資格取得に対する事業所の支援の体制や、母体病院の保育所開設等で職員の働きやすい環境の整備に加えて、運営面では管理者や在宅責任者の適切な指導や指示があり、事業所開設以来職員の異動が無い。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修情報を提供して勤務調整を行い、職員の研修参加のサポートをしている。又母体病院主体の研修会・勉強会があり、ホームとして転倒委員会を受け持っている。研修内容は回覧し、職員全員の衆知に務め職員一人ひとりの力量の向上を図ると共に母体の病院関係者や在宅責任者が個々にアドバイスをして職員の育成に努めている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 岐阜県グループホーム協議会に属し、中濃支部内での交流の中での情報提供や他のグループホーム訪問で見聞した意見や長所は取り入れてサービスの質の向上に活かしている。利用者の家族の看護師からも情報提供や指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 試し入居(デイ)を行い、楽しい持間を過ごせるように配慮し、食事も行事食にするなどの工夫をしながら他の入居者や職員と顔見知りになってからの入居にしている。入居後暫くは家族の訪問をお願いして利用者の不安の軽減に努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の高齢化により、職員との共同作業は減りつつあるが利用者の力量に応じた作業と一緒にやっている。野菜や花の手入れや食事の用意、字の上手い利用者には七夕の短冊書きや名簿書きをお願いしている。職員からの感謝の言葉掛けに利用者の笑顔の返礼が職員の喜びであり支援の励みとなっている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所前の訪問や面接及び入所後の会話等で本人の希望や意向を把握している。さらに経過記録に言葉やしぐさをそのまま記入して利用者の思いを職員で検討し、利用者の心を受け止める支援を行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画の作成には利用者や家族の意見を聞く事は勿論、「その人らしく輝けるか？喜んで頂けるか？笑顔になれるか？」を関係者と話し合い、プライバシーや安全に配慮して利用者一人ひとりに添った介護計画を作成している。「美味しく食べて心地よい入浴や排泄や睡眠が出来る事」を基本にし、何が必要かを検討し、枝葉のように細部にわたる支援を展開している。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月毎の見直しを行っている。申し送りノートや検討会議で常に利用者の状況を把握し、変化があればその都度見直しを行い、支援が現状に即しているか職員間で話し合いをし、支援方法を決めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携を結び、緊急時の受診や助言を受け、利用者の入院回避や早期退院の支援を行っている。他の事業所に移る利用者の情報提供や退去後の訪問を行い、利用者の不安の無い様に務めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族の意向でかかりつけ医を受診の利用者には情報提供をして適切な受診の支援をしている。家族の同意を得て往診を依頼し事業所に来て貰う時もある。処方される薬にも服薬後の利用者の状態を把握して、かかりつけ医と連携を取り利用者により良い服薬支援をしている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化に伴う支援方針を選択する「事前指定書」を在宅責任者が詳しく説明し、利用者や家族の同意を得て作成し職員も共有している。書類の作成には「利用者が自分らしく生きて頂く」事を第一に考えての家族の意見の統一をお願いしている。また時間の経過による心境や環境の変化で方針の変更が必要な場合を想定し書類の様式を考慮中である。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者にとって一番大切なものは何か？を意識しながら、支援や言葉掛けをしている。プライバシーと利用者の意向と危険とを区別しどれを守るか、職員で話し合っ優先順位をつけている。食事中にトイレに行く利用者を察知してのさりげない誘導があり職員のプライバシーに対する意識の高さが汲み取れる。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の思いを大切に、寺参りが日課の方は賽銭を持って出掛け、家族が持ってきた人形を自分の子供のように可愛がる利用者を見守り、居間での昼寝を好む利用者の為にベッドを置き、居心地の良い環境を整えている。一人ひとりに合った生活リハビリを考案し、その人らしい生活の維持継続を目指した支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員と利用者が一緒に出掛けて旬の物や利用者の好みの材料を買ったり、ホームの菜園の野菜で調理している。機能低下予防や誤嚥予防の支援で流動食の利用者も普通食に変わって食事を楽しんでいる。魚料理は骨を抜いてから魚の姿に戻して出すなど見た目の美しさにも気を付けている。また利用者同志の相性を考慮したテーブル配置をしている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴時間は限定せず利用者の希望を聞いている。入浴を拒む人には職員が代わって対応している。夜間の入浴希望にはシャワー浴をしている。入浴出来ない時は清拭や足浴をして清潔保持に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の生活歴を活かした野菜畑の手入れ、七夕飾りの書き入れ等を依頼し、縁日のたい焼きが楽しみな人は職員と出掛けて自分で支払いをしている。又ご主人が入院中の利用者には御見舞を兼ねての病院受診の支援をしている。利用者の誕生日にはケーキを用意して誕生会を開き職員と利用者からのお祝いの言葉掛けがある。今後時を経て利用者の笑顔が消えぬ支援を望みたい。 | | 利用者を理解し、その人らしく輝く為の支援が出来るよう機能低下予防に力を入れている。時間の経過と共に出来る範囲が少なくなるが、これからも輝く時間が保てる様に機能低下を組み入れた支援方法を今から職員間で検討される事をお願いしたい。 |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や利用者の状態に配慮して、寺参りや散歩・昔馴染みの店への買い物等に出掛けている。以前に住んでいた地域の老人会行事に出掛ける利用者もある。また病院受診は馴染みの医療関係者や地域の人との交流があり楽しみな外出になっている。外出に際してはトイレの位置確認を事前に行い、利用者が困らぬ様な配慮がある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は、玄関や居室の鍵は掛けていない。利用者職員と一緒に時間が多く、外へ出て行く気配を察知した時は、職員が後から付いて行き、頃合を見て声をかけ帰宅している。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策を説明をする運営推進会議には自治会長の出席をお願いし、地域の方を巻き込んで避難訓練を行っている。防災マニュアルは職員の良く見える場所に置き、行動手順書も大きめの字で分かり易く書かれており、職員は法人内研修等で学び共有している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|--|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量についてはチェック欄を設けてチェックし、栄養管理は病院の管理栄養士の指導を受けている。水分は気を付けて摂取の支援に当たり、居室の冷蔵庫に好みの飲み物を用意して水分補給をしているが、記録簿への記載が無い。 | | 管理者や職員は利用者の健康状態について十分な配慮をしているが、水分摂取のチェック欄が無く、高齢の利用者の水分摂取の把握は必要と思われる。チェック欄を設けられる事をお願いしたい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間・台所・食堂は一体化して広く、高齢の利用者にも負担が少ない。小さい台を布でくるんで足元に置き安定した床着地で機能低下予防を行い、暑い時は皆で団扇を使うなど日常的な生活リハビリの場所としても活用している。居間続きのベランダは流しソーメンをしたり、ひなたぼっこや足浴の場として楽しい多目的の共有空間になっている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 衣替えは家族にお願いし、季節外の衣類は自宅に持ち帰って貰い、居室は整頓されて行動しやすい。2階の居室の利用者は高齢であるが階段の昇り降りが生活リハビリになっている。家族の写真や大切な人形が置かれて心地よく過ごせる場所になっている。 | | |